

IDDNewsletter.....5

May
2022



特集1

学校出版物リノベーション

～『給食だより』のリデザインを通して、学校の思い込みをブレイクスルーする～

学校で作成される印刷物にも様々なものがあります。

それは、例えば、学級通信だったり、例えばPTAだよりだったりします。

今回は、その中でもよく読まれている通信類の一つとして、「給食だより」を取り上げ、そのリデザインの活動して、ある限られた範囲内に存在する価値をデザインの力によってブレイクスルーすることを試みます。

特集2

学校給食コンテストコラボメニューの実食！

専攻科情報デザイン科では、道議会食堂を会場に行われる「道主催学校給食コンテストコラボメニューイベント」の宣伝用ポスターやアンケート用紙などのデザインを行いました。そのコンテストのメニューが「道議会食堂」で提供されることとなり、制作した学生と訪問し、実際に食することにしました。本特集では、その時の様子についてお伝えいたします。

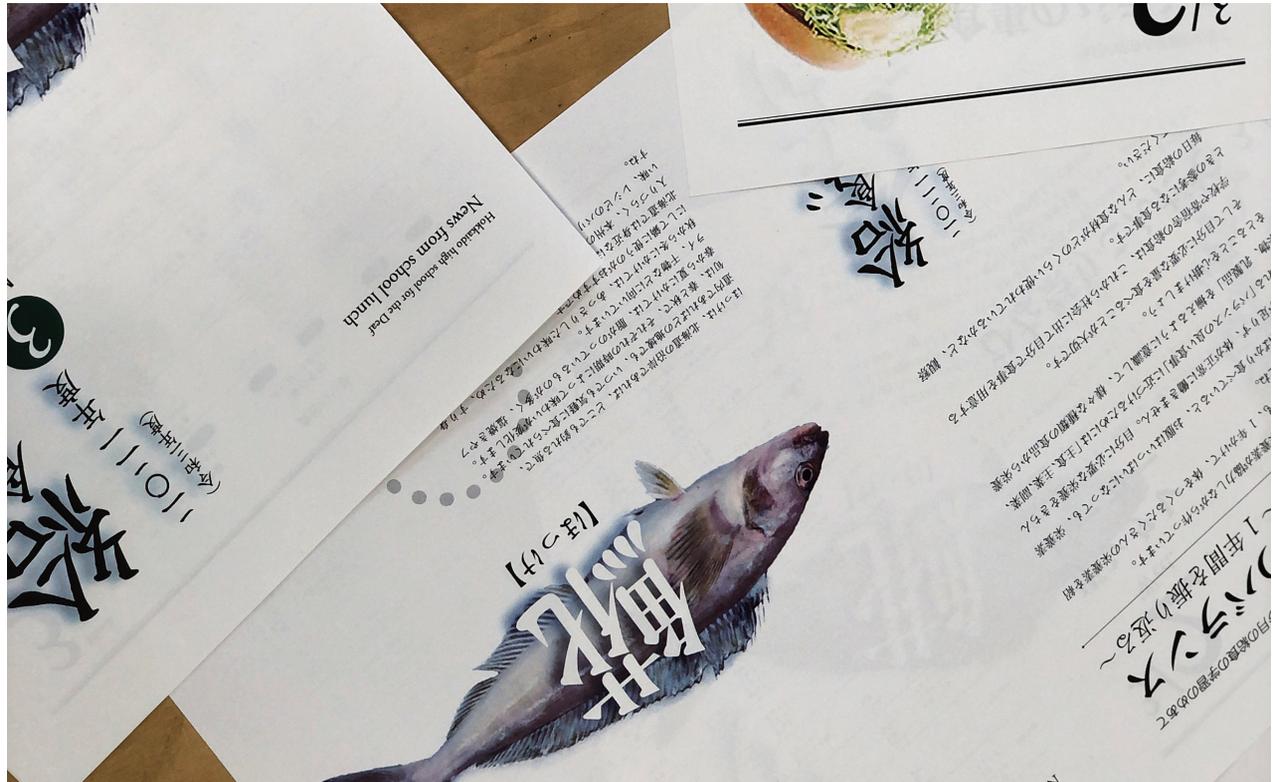
学校出版物リノベーション

～『給食だより』のリデザインを通して、学校の思い込みをブレイクスルーする～

学校で作成される印刷物にも様々なものがあります。

それは、例えば、学級通信だったり、例えばPTAだよりだったりします。

今回は、その中でもよく読まれている通信類の一つとして、「給食だより」を取り上げ、そのリデザインの活動して、ある限られた範囲内に存在する価値をデザインの力によってブレイクスルーすることを試みます。



学校で作成される印刷物にも様々なものがあります。例えば、学級通信だったり、例えばPTAだよりだったりするのですが、今回は、その中でもよく読まれている通信類の一つとして、「給食だより」を取り上げてみます。

給食だよりは、その月の献立やそこで使われる食材についての情報が掲載されている情報誌であるといえます。

給食だよりのフォーマットというのは、ある種のステレオタイプようになっていて、「給食だより」と聞いて想起される漠然としたイメージは、学校というフォーマットの中で、強固に染み込み、組み込まれ続けているように感じます。

そこで、その枠組みをいったん解体し、再構築する試みを専攻科情報デザイン科ではチャレンジしてみました。

方向性としては、「学びとしての給食」です。給食は、単なる食事ではなく、目的的な学習活動ですから、そのフレームがいかにずれずに伝わるか、ということは重要な観点になります。

加えて、年齢相応のイメージをどう構築するか。給食の通信系のテンプレートは、各出版社から発行される雑誌の付録等に収録されていますが、やはり、本校の生徒学生の発達年齢を考えれば、いささか閉口せざるをえないものもあるのが事実です。それを、どう乗り越えていくか。実は、学校というフレームの中では、これは、なかなかの難題だったりします。

フレンチのレストランのメニューや事前食品の通販のリーフレット等を参考にし、書体の使い方やレイアウトの方向性、使用する配色パターン等を吟味し、構成する等を工夫や、これまでに制作したグラフィックデザインの作品を見直し、利用できるイメージを抽出したりといった作業を繰り返しました。

最終的には、写真のようなA4二つ折りリーフレットとして仕上げることとなりました。あくまで試作ですので、今後日の目を見ることがあるかはまだ定かではありませんが、何かしらの新しい方向性や価値を生み出す一助になればと考えております。

IDDN

特集2

学校給食コンテストコラボメニューの実食！

専攻科情報デザイン科では、道議会食堂を会場に行われる「道主催学校給食コンテストコラボメニューイベント」の宣伝用ポスターやアンケート用紙などのデザインを行いました。そのコンテストのメニューが「道議会食堂」で提供されることとなり、制作した学生と訪問し、実際に食することにしました。本特集では、その時の様子についてお伝えいたします。

専攻科情報デザイン科では、令和4年（2022年）3月23日水曜日、「スタートアップカンパニープロジェクト」で制作した、学校給食コンテストの宣伝用ポスターやアンケート用紙などのデザインを行いました。そのコンテストのメニューが「道議会食堂」で提供されることとなり、制作した学生と訪問し、実際に食することにしました。

23日と24日の2日間、コンテスト入賞の特別メニューは提供されますが、訪問した23日は、コンテスト準優勝「くじら汁（函館市立亀田中学校）」が販売されました。

当日は、到着後、すぐにコラボメニューの担当の方から説明を受けたり、マスコミ取材を受けたりしました。また、食後のアンケートでは、「くじら汁に関しては地元で食べてい

た時と比べるとすごくあっさりした感じがあり、おかわりを求めたくなるような優しい味付けでした」「他校の給食を食べる機会が少ないので、今回を通して経験したのが良かったです」といった感想が学生から寄せられました。

年度末の忙しい時期ではありましたが、学生にとって、濃密で意義のある学びの時間になったと思われま

IDDN



Contents

- 特集1**
- 2 **学校出版物リノベーション**
～『給食だより』のリデザインを通して、学校の思い込みをブレイクスルーする～
学校で作成される印刷物にも様々なものがあります。
それは、例えば、学級通信だったり、例えば PTA だよりだったりします。
今回は、その中でもよく読まれている通信類の一つとして、『給食だより』を取り上げ、そのリデザインの活動して、ある限られた範囲内に存在する価値をデザインの力によってブレイクスルーすることを試みます
- 特集2**
- 3 **学校給食コンテストコラボメニューの実食！**
専攻科情報デザイン科では、道議会食堂を会場に行われる「道主催学校給食コンテストコラボメニューイベント」の宣伝用ポスターやアンケート用紙などのデザインを行いました。そのコンテストのメニューが「道議会食堂」で提供されることとなり、制作した学生と訪問し、実際に食することにしました。本特集では、その時の様子についてお伝えいたします。



Welcome to Information Design Department!!

北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科学科だよりをお読みいただきまして、ありがとうございます。

いよいよ新しい年度が始まりました。今年度は、3名の新入生を新たに迎え、全部で6名の学生でのスタートです。

私達教員にとっては、いつもどおりのケの日の風景、新入生にとっては一生に一回のハレの日の風景です。

学生たちの価値ある学びのため、今年度も授業の内容や指導方法に努めてまいります。

今年度も皆さまよろしくお願いたします。

専攻科情報デザイン科の特徴

- ・高等学校に設置される「専攻科」と同様の枠組みです。(いわゆる「標準教育」の教育課程です)
- ・授業料が全くかからず、材料費等も非常に低コスト^(注3)で、対費用効果の高い学びができます。また、通学等に関わる費用は「就学奨励費」の対象^(注4)となっており、支援制度等も充実しています。
- ・DTPやWebに係わる「最新の」「スタンダード」な内容を重視します。(例えば、Webであれば、HTML5とCSS3を使い、セマンティックなコーディング、というように。もちろんテーブルレイアウトやcenterタグは使いません！)
- ・デザイン等に専門的な学習だけではなく、特別支援学校における「自立活動」^(注5)で扱うべき内容、例えば日本語教育や聴者社会の社会生活に係わる内容等を、総合的に、到達度がはっきり理解できるように学びます。
- ・学生のこれまでの学びの環境や積み重ね(「普通校」出身者か「聾学校」出身者か、失聴時期、日本語のリテラシー、学力等)に合わせた教育方法を準備します。
- ・筑波技術大学と協調した授業等も行っています。
- ・修了後について、本人、保護者の希望をお聞きすると同時に、ロールモデルとなる聴覚障がい教職員のアドバイスを受けたり、聴者社会とろう者社会、ろう者と難聴者との違い^(注6)などについて客観的に学びながら、単に「好きなこと」から「(社会にとって、自分にとって)やる価値のあること」「自分の技量のできること」「社会に貢献できること」といった観点から主体的に進路選択できるようにしていきます。

ファックス：0134-62-2663

電子メール：koutourou-z0@hokkaido-c.ed.jp

電話：0134-62-2624

※入試前まで教育相談等に対応できます。

一人一人に合った指導方法を準備するために、できるだけ入試前に教育相談にお越しになることをおすすめいたします。

情報デザイン科学科だより

Information Design Department

IDDNewsletter

May 2022 5

IDDNewsletter May 2022

発行人／北海道高等聾学校専攻科情報デザイン科「学科だより」編集チーム

発行／北海道高等聾学校

〒041-0261 北海道小樽市銭函1丁目5-1

www.koutourou.hokkaido-c.ed.jp

※ご意見、ご要望などにつきましては、上記 Web ページより電子メールでご連絡ください。